



- 夏季間の牛舎内環境作り——積極的な換気対策で快適に——
- 優秀酪農家紹介・独自の育成牛飼養管理技術にて早期離乳・早期分娩
- エスカリウを使って一石二鳥
- これからの草地更新と草地管理
- サイロ見張番MO!!・アクレモシリーズご案内

今月の主な目次

時の話題

北海道農業研究センターに求められるもの

北海道農業研究センターは昨年四月一日に、北海道農業試験場から、独立行政法人農業技術研究機構の地域農業研究センターとして新たに出発した。また、明治三四年に北海道農事試験場として設立されてから満百年となった。ここで北海道農業研究センターの簡単な紹介と、新しい研究機関として求められるものについて考えてみたい。

独立行政法人としての北農研は農林水産大臣が定めた期限付き(我々の場合は五年間)の中期目標に沿って中期計画を立て、期間内に想定された成果を出すよう義務づけられている。予算執行や人事等での自由度が増す一方で、運営の透明性や具体的な数値で示された効率化等が求められる。さらに、所外有識者で構成される評価委員会での機関・研究課題の評価が義務づけられ、評価結果も公表される。研究費は公募型の競争的資金や、これまでは制限されてきた外部資金の積極的な導入が求められる等多くの点で変革された。

「食料・農業・農村基本法」が平成一一年に制定され、農業政策は大きく変更になった。今まで農業生産にかかわる技術開発が中心であった我々の研究も、消費者・実需者に視点をおいた研究や、農村のあり方、環境に負荷を与えない持続可能な

農業技術の開発等へと、研究対象をシフトすることが求められている。食料の安定供給が最大の課題だった時代から、国際競争力の強化を目指した品質重視の研究、さらに、大規模化、低コスト化の技術開発をおこなってきた。しかし、農村人口は減少し、地域を活性化するための施策が重要となっている。そのため、単に大規模化だけではなく、中規模農家が経営している高収益が可能な、あるいは高齢化に対応した軽労化等の技術開発、BSE発生の反省にたつての、自給飼料依存型の飼養技術開発は特に重要である。また、環境保全型農業技術の開発は「新基本法」での柱のひとつである農業の持続的発展の核の課題となる。

食料に対する消費者の関心は「安全、安心」であり、このことを的確にとらえずに農業研究はありえない。「食と農」の新しい関係の構築と、それを支援する研究の進展を図る必要がある。我々研究機関は生産者、消費者あるいは行政から、多様な、かつ短期間で解決を求める技術開発の要望があり、一方では研究の重点化、効率化や従来为国研としての基礎的・先導的、基盤的研究の充実が求められている。また、我々の研究内容、成果の広報活動が不十分との指摘もよく受ける。限られた研究資源をいかに活用していくか、どうやって我々の研究を広く理解してもらおうか、知恵を出し合いながら進んでいきたいと考えている。

(北海道農業研究センター 所長 桑原真人)